



THE JAPAN SOCIETY OF  
HEALTH EVALUATION AND PROMOTION

# 日本総合健診医学学会

ご案内と活動紹介

2024年度版



一般社団法人 日本総合健診医学会  
理事長

西崎 泰弘

## 「学会の進むべき方向性」

私が理事長に就任してお陰様で1年余が経過いたしました。昨年5月より新型コロナウイルスは感染症法上の第5類へと変更されました。ウイルス自体の収束傾向に加え、法的区分の変更は社会活動を明らかに活発化へと導き、結果的に2023年度は社会がコロナ前の生活を取り戻す移行期の1年だったと思います。

受け控えによって受診者を減らした我々の領域にも、以前の活気と繁忙さが戻りました。2023年1月に理事長に就任させて頂いてから1年半経過しましたが、私がこの間に先ず行ったことは組織改革と、関係する団体に直接出向いて幹部の方々にお目に掛かり、意見交換をすることでした。近年、個人情報保護やハラスメントあるいは臨床研究など学術団体の活動に関係する法律や関連法規、ガイドライン等は目まぐるしく改定されています。私は、永年の副院長・病院長経験から、事務局と学会委員会等の役割を明確化するとともに、コンプライアンス強化を目的としたガバナンス整備を行い、現在も継続中です。他団体への訪問では、日本人間ドック・予防医療学会様を皮切りに、日本専門医機構様、全国健康保険協会（協会けんぽ）様、厚生労働省（一般健診と歯科検診）様、全日本病院会様、結核予防会様、健康保険組合連合会様、健康評価施設認定機構様とご面会させて頂き、大変有意義な意見交換をさせて頂きました。そして、結論として私が強く感じたのは、私たち学術団体に求められる事は様々にありますが、中でも、やはり「科学的エビデンスの探索、構築、発信、検証が最も重要」で、皆さんが期待していると云う事でした。

日本はいま人口減少と少子高齢化そして経済の低成長、円安などによって国力が弱りつつあります。それを跳ね返す鍵は女性と高齢者の活躍であり、さらにイノベーションが加わることで実効性が増すと考えます。そのための発想力涵養と研究力向上を学会が強力に推進し、未来を切り拓く原動力にできればと考えます。これからも様々な情報を発信しつつ、学会の活性化を図って参ります。皆さま、ぜひ学術大会や各種研修会への積極的な参加をよろしくお願い申し上げます。

## 日本総合健診医学会の 歴史

本学会は昭和48（1973）年に日本自動化健診システム研究会として発足し、現在に至るまで総合健診の確立に邁進してきました。

### 学会の歴史

- 昭和48（1973）年 日本自動化健診システム研究会発足
- 昭和50（1975）年 日本自動化健診学会へ改称
- 昭和60（1985）年 日本総合健診医学会へ改称
- 平成16（2004）年 有限責任中間法人 設立
- 平成21（2009）年 「一般社団法人」へ法人名変更

### 会長・理事長

年 度	氏 名
昭和48(1973)年～昭和61(1986)年	樫 田 良 精
昭和62(1987)年～平成 8(1996)年	日 野 原 重 明
平成 9(1997)年～平成18(2006)年	田 村 政 紀
平成19(2007)年～平成27(2015)年	日 野 原 重 明
平成27(2015)年～令和 4(2022)年	福 武 勝 幸
令和 5(2023)年～現在	西 崎 泰 弘

### 2023・2024年度 理事・監事

役職名	氏 名	所 属	役職名	氏 名	所 属
理 事 長	西 崎 泰 弘	東海大学医学部総合診療学系健康管理学領域主任教授	理 事	小 松 淳 子	日本赤十字社医療センター 健康管理科 部長
副 理 事 長	高 橋 敦 彦	日本大学短期大学部 教授、食物栄養学科 学科長	理 事	高 木 重 人	横浜リーフみなとみらい健診クリニック 院長
副 理 事 長	山 上 孝 司	一般財団法人北陸予防医学協会 施設長	理 事	樫 原 英 俊	医療法人宝生会PL東京健康管理センター 指導課 課長
理 事 長 特 別 補 佐	林 務	独立行政法人労働者健康安全機構関東労災病院 臨床検査科・輸血部・中央検査部 部長	理 事	浜 田 宏	一般財団法人倉敷成人病センター 倉敷成人病健診センター 副センター長
理 事 長 特 別 補 佐	井 上 詠	東海大学医学部総合診療学系健康管理学 准教授	理 事	五 関 善 成	全国土木建築国民健康保険組合 総合病院 厚生中央病院 副院長、循環器内科 部長
理 事	福 武 勝 幸	東京医科大学 臨床検査医学分野 名誉教授／兼任教授 医療法人財団 荻窪病院 血液凝固科 部長	理 事	丸 山 雄 一 郎	JA長野厚生連浅間南麓こもろ医療センター 放射線科 部長
理 事	田 内 一 民	順天堂大学医学部 大学院医学研究科 臨床病態検査医学 特任教授	監 事	菱 沢 利 行	医療法人藤和会藤間病院 名誉院長
理 事	加 藤 秀 平	医療法人順秀会 理事長	監 事	富 山 博 史	東京医科大学 循環器内科 教授
理 事	増 田 勝 紀	聖路加国際病院附属クリニック 予防医療センター 特別顧問	監 事	及 川 孝 光	医療法人社団こころからだの元氣プラザ 学術特任顧問

## 国際健診学会

国際健診学会は1971年に発足し、第1地域（米国）、第2地域（欧州）、第3地域（アジア、オーストラリア、太平洋諸島）の3つの地域に分けられましたが、近年では第3地域での活動が中心となっています。現在、国際健診学会のPresident Emeritusには本学会元副理事長の久代登志男先生が就任されています。また、第3地域事務局は本学会事務局内に置かれています。

学術大会は2年毎に開催され、次のIHEPA（国際健診学会）2025は2025年1月31日（金）～2月1日（土）にグランドニッコー東京ベイ舞浜（千葉県）で日本総合健診医学会第53回大会と同時開催予定です。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

なお、国際健診学会の今後の予定は、国際健診学会HP（<http://www.ihepa-region3.org/>）をご参照ください。

## 学術大会の開催

本学会では昭和48年（1973年）11月に東京の機械振興会館で第1回大会を開催して以来、毎年1回、学術大会を開催しています。学術大会では、毎回、大会テーマに沿った特別講演、教育講演、シンポジウム等様々なプログラムが用意されており、総合健診の最新情報を提供するとともに、発表や討論を通じて、健診に携わる多くの職種、業種の方々の交流の場となっています。

### 次回大会予定 日本総合健診医学会 第53回大会

**メインテーマ** 継往開来 ～エビデンスと経験を受け継ぎ新しい時代の総合健診を切り開く～

**大会長** 井上 詠（東海大学医学部総合診療学系健康管理学 准教授）

**会 期** 2025年1月31日（金）～2月1日（土）

**会 場** グランドニッコー東京ベイ舞浜（千葉県浦安市）

### 同時開催 国際健診学会主催 IHEPA2025

**テ ー マ** The Importance of Gender Differences and Aging Process in General Health Check-up  
～ for the comprehensive health evaluation and promotion to all people in world wide.

**大会長** 西崎 泰弘（東海大学医学部総合診療学系健康管理学 主任教授）

## 研修会

健診に関する有益な情報提供の場として各種研修会を開催しています。詳細な開催情報は、募集時期になりましたら学会ホームページに掲載します。

### 2024年度研修会予定

研修会名	開催期間	開催方式
実査講習会	1/26	会場
人間ドック健診専門医研修会	会場：1/27 WEB：2/6～2/20	ハイブリット
指導士・業務管理士研修会	2/8～2/21	WEB
特定保健指導の見直しに対する研修会	会場：3/2 WEB：3/12～3/25	ハイブリット
人間ドック健診専門医研修会	6/4～6/18	WEB
精度管理研修会	6/7～6/20	WEB
産業医支援研修会	7/21	会場
データヘルス研修会	会場：6/29 WEB：7/5～7/18	ハイブリット
優良施設認定基準研修会 ・実査委員研修会	9月（予定）	WEB

## 学会誌について

本学会では、昭和49年（1974年）に学会誌を創刊し、現在『総合健診（英文誌名:Health Evaluation and Promotion）』を年6回刊行しています。経験豊富な各分野の専門スタッフからなる編集委員会を組織し、予防医療を代表する学術雑誌として、総合健診、産業保健、学校保健などに関する最新知識を提供する、質の高い誌面作りに努めています。また、原著や総説だけでなく、健診に役立つ連載企画や、学術大会で行なわれた各種講演、研修会の内容も解りやすく掲載しています。『総合健診』誌に掲載された論文は、独立行政法人科学技術振興機構（JST）の「科学技術情報発信・流通総合システム」（J-STAGE）を通じて世界に向けて公開されており閲覧数は順調に伸びています。皆様もぜひご活用ください。



### 編集委員会委員長より

編集委員会は委員長、2名の副委員長と健診の第一線で活躍され専門分野の異なる10名（海外のvisiting editorを含む）の委員による計13名で構成されています。ご投稿いただきました論文は、編集委員と査読委員の2名によるピアレビューを経て掲載に至ります。年間を通じ最も優れた和文と英文の各1編に「優秀論文賞」が贈られ、学術大会内で表彰されます。多くの会員諸氏のご投稿をお待ち申し上げます。会員の皆様に有益な情報発信ができますよう、これからも誌面の充実に努めて参ります。ご愛読のほど、よろしくお願い申し上げます。



東海大学医学部  
総合診療学系健康管理学 准教授  
井上 詠



## 優良総合健診施設



### <優良総合健診施設とは>

近年、急速な少子高齢化や国民生活の意識の変化等から、健診をはじめとする予防医学に対する社会の関心が高くなっており、より一層環境の整った信頼できる適切な施設での健診が求められています。本学会では、学会設立当初の昭和49年（1974年）から各施設の健診設備、健診システム、受診者対応、安全対策、感染対策などを中心に本学会に所属する施設が社会的に信頼される医療水準で運営されているかどうかを審査し、「質」の保証された施設には「優良総合健診施設」として認定をおこなっています。本年6月現在、262施設が認定されていますが、認定にあたっては本学会の定める「優良総合健診施設認定基準」を充たす必要があります。

1. 本学会の会員であること。
2. 施設が独立しており、一般診療受診者と区別されて総合健診が行なわれていること。
3. 本学会の規定する基準検査項目が総合健診受診者に対し行なわれていること。
4. 総合健診全体の品質管理が行なわれていること。
5. 受診者全員に対して当日面接を行い、健診結果の説明と生活指導を行うことができること。
6. 一般社団法人健康評価施設査定機構に入会していること。

※各基準の具体的な内容については学会ホームページをご参照ください。

### <優良総合健診施設認定を受けるメリット>

- 1 **健康保険組合連合会（以下「健保連」）との指定契約に参加することができます。**  
健保連加盟の健保組合と個別契約を行わなくても、ご施設の設定した料金で総合健診受診者の受入れができます。
- 2 **健診施設としての信頼性が高まります。**  
信頼性が向上することにより、健保連に加盟していない健保組合とも個別契約を結びやすくなります。
- 3 **「質の高い健診」の提供により、受診者の安心につながります。**  
健診専用のフローアールや当日面接の実施、精度管理調査への参加など、本学会の厳しい条件をクリアすることによって「健診の質」が保証され、受診者の安心・安全を確保できます。

### <実地審査>

新規認定及び、認定更新の際には、優良総合健診施設認定委員会または実査委員が施設を訪問し実地審査（実査）を行っています。実査では委員が受診者の目線で現場を確認し、受診者が安心して健診を受けられる体制であるか、環境が整っているかをチェックしています。

#### 優良総合健診施設認定委員会委員長より

優良総合健診施設認定委員会では、新型コロナウイルス感染症の5類への移行に伴い実地審査を再開しております。実地審査は、感染状況、施設の対応状況、実査地域の実情等を考慮して行うことにしております。施設におかれましては、飛沫・接触感染対策を講じた会場で審査ができるようお願いいたします。緊急事態宣言や移動、外出自粛要請等が発出された際には、実施時期を再調整することもありますことをご了承ください。

また、新規に取得される際や更新の際だけでなく、移転や設備変更が行われた際にも実地審査を行うことも併せてご承ください。

ご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。



独立行政法人  
労働者健康安全機構関東労災病院  
臨床検査科・輸血部・中央検査部 部長  
林 務

## 受診者統計

本学会では、判定基準の妥当性や、健診精度の見直し、健診機能の評価や加盟施設全体の平均値との比較を行う受診者統計指標を作成しています。

受診者統計A（総合健診）と受診者統計B（特定健診）の2種類の受診者統計事業を、2015年からこれまで実施してきましたが、2023年度の調査における参加施設数は、Aが298施設、Bが224施設、総受診者数は、Aが232万人、Bが396万人でした。

また、会員施設がデータヘルス計画に積極的に取り組んでいる施設であることを内外に示すことができるように、「データヘルス支援施設」を認証しています。この認証の条件は、当該年度のデータヘルス研修会に参加していること、受診者統計Bを提出していること、施設内の情報セキュリティ環境を保証する認定を取得していることとなります。

#### エビデンス指標委員会委員長より

2024年度から特定健診の4期目、データヘルス計画の3期目が始まりました。国は、事業所や健保組合に対し、働き方改革、健康経営、データヘルス計画の作成と実施等を求めるとともに、個人に対してPHR（パーソナルヘルスレコード）の活用を図る計画を推し進めています。この統計事業が、それらの活動を後押しするものになるように、また各健診施設が活用しやすいように、受診者統計事業を一層充実したものにしていきたいと思っています。



一般財団法人北陸予防医学協会  
施設長  
山上 孝司

## 精度管理調査事業

### 精度管理調査とは

近年、医学・医療の進歩や多様化に伴い、より正確で速い検査の必要性和施設間の検査結果の標準化が求められ、結果に対しての保証として精度管理事業の意義はより一層増大してきました。標準化された検査結果を用いて科学的根拠に基づく診断、治療を実践する以上、精度管理は医学・医療にとって必要不可欠な事業です。

本学会では、昭和48年（1973年）の創立当時より精度管理委員会を設置し、会員施設に対し独自の外部精度管理調査を続けて、信頼される総合健診を実現するために力を注いできました。この精度管理調査には本年6月現在、370施設が参加しています。

また、平成20年（2008年）からは、従来より実施していた検体検査に加えて、画像検査（胸部単純X線検査）、生理機能検査（心電図検査）の調査も始まりました。精度管理調査は現在、年4回実施していますが、第1回は画像検査（胸部単純X線検査）、生理機能検査（心電図検査）、第2回～第4回は特定健診の項目を中心に3濃度ないし2濃度の検体を用いた検体検査の調査を行っています。

### 調査項目及び実施スケジュール

実施時期	試料	項目
第1回 （2月）	CD	胸部単純X-P
	CD	安静時心電図
第2回 （4月）	生化学、脂質、CRP	TG, TC, HDL-C, LDL-C, AST (GOT), ALT (GPT), $\gamma$ -GT, Glu, TP, ALB, ALP, LD, BUN, Cre, UA, A/G比, CRP
	HbA1c	HbA1c
	尿	尿蛋白, 尿糖, 尿潜血
	血算	RBC, Hb, Ht, WBC, MCV, MCH, MCHC, PLT
第3回 （7月）	生化学、脂質、CRP	TG, TC, HDL-C, LDL-C, AST (GOT), ALT (GPT), $\gamma$ -GT, Glu, TP, ALB, ALP, LD, BUN, Cre, UA, A/G比, CRP
	便	便潜血
	血算	RBC, Hb, Ht, WBC, MCV, MCH, MCHC, PLT
	生化学、脂質、CRP	TG, TC, HDL-C, LDL-C, AST (GOT), ALT (GPT), $\gamma$ -GT, Glu, TP, ALB, ALP, LD, BUN, Cre, UA, A/G比, CRP
第4回 （9月）	HbA1c	HbA1c
	尿	尿蛋白, 尿糖, 尿潜血
	血算	RBC, Hb, Ht, WBC, MCV, MCH, MCHC, PLT
	生化学、脂質、CRP	TG, TC, HDL-C, LDL-C, AST (GOT), ALT (GPT), $\gamma$ -GT, Glu, TP, ALB, ALP, LD, BUN, Cre, UA, A/G比, CRP

### 精度管理委員会委員長より

健診施設では一度に大量のデータ処理を行うので、ひとたび精度が損なわれると多くの偽陽性、偽陰性が発生し社会に対して大きな影響を与える危険性があります。精度管理は、受診者・社会から信頼される検査水準を維持しているかを客観的に評価できる大切なツールです。検体検査に加え心電図や胸部レントゲン検査まで含む精度管理は本学会独自のものです。本委員会では年4回の調査で各施設の精度管理の向上に役立ててもらえるように、データをフィードバックさせていただいています。受診者が全国どこでも安心して総合健診を受けることができるよう多くの施設に参加していただきたいと思います。



全国土木建築国民健康保険組合  
総合病院 厚生中央病院 副院長  
循環器内科 部長  
五関 善成

## 総合健診指導士・総合健診業務管理士

### 総合健診指導士・総合健診業務管理士とは

本学会では平成17年（2005年）に総合健診指導士の認定を、翌平成18年（2006年）に総合健診業務管理士の認定を開始しました。総合健診指導士とは、総合健診施設に勤務する医師以外の医療スタッフの能力を啓発し、総合健診の健康指導と支援の質の向上を図ることを目的とした資格です。また、総合健診業務管理士とは、総合健診施設に勤務する医療職以外の事務系職員の能力を啓発し、総合健診システム全体を支えるマネージメントの質の向上を図ることを目的とした資格です。両資格とも、勤務形態（常勤／非常勤）は問いません。

本年6月現在で総合健診指導士は185名、業務管理士は99名が認定されています。資格取得者は、本学会優良認定施設の実査委員としても活躍しており、認定施設の発展に貢献しています。

### 指導士・業務管理士委員会委員長より

医師には専門医制度がありますが総合健診は医師だけではできません。事務職員を含むコメディカルとの適切な連携・協働が必要であり、施設には総合健診に精通したコメディカルが必須です。このため日本総合健診医学会では、総合健診指導士として医師以外の医療職、業務管理士として主に事務職員を対象に認定制度を設けております。専門医だけでなく総合健診に精通したコメディカルを認定することで、コメディカルも意欲を持って業務を行うことが期待されます。これらの認定資格者は優良総合健診施設認定の取得および認定更新時の実地審査で、受審する側、実査する側の双方において、重要な役割を演じています。なお、委員会では認定試験に関する業務の他、研修会の企画・開催、関連学会・団体との認定更新単位の相互乗り入れを推進しています。



PL東京健康管理センター  
指導課 課長  
梶原 英俊



## 総合健診医

### 総合健診医とは

本学会では令和5年度（2023年度）より、本学会独自の認定医制度「総合健診医」を創設し、本年6月現在、296名が総合健診医として認定されています。本制度は、一定レベル以上の健診・人間ドック・総合健診・検診に関する経験、知識、実務能力を有することを認定するもので、認定条件は健診業務に従事していることに重きをおき、健診に関わる様々な立場の方に取得いただける条件としています。

### 認定条件

- 1) 日本国の医師免許取得者で医師としての人格識見を有する者。
- 2) 認定申請時に、3年以上本学会正会員である、または、本学会正会員であり過去3年の健診従事歴があること。但し、いずれも会費を完納していること。
- 3) 認定申請時に、健診（検診）に関わるいずれかの業務<sup>注</sup>について累積200例以上の実績があり、施設長の証明が得られること。

注) 健診（検診）に関わるいずれかの業務：問診・診察・検査・結果説明・健康指導など。

また、認定者向けにオンラインによる継続的な学習環境を整え、日常の健診業務に役立つ実学的な学習内容を順次提供してゆくことにより総合健診医の知識・技能の向上を図り、ひいては国民の健康と福祉に貢献することを目指しています。

## 人間ドック健診専門医

### 人間ドック健診専門医とは

本学会では、平成17年(2005年)に専門医制度を発足させましたが、平成24年(2012年)から日本人間ドック・予防医療学会と合同で人間ドック健診専門医制度の運営を開始し、本年6月現在両学会で合せて2149名が人間ドック健診専門医として認定されています。現在、人間ドック健診専門医制度委員会では日本専門医機構の新しい整備基準に沿った規定整備や研修環境の整備をすすめ、人間ドック健診専門医が日本専門医機構の認定を取得できるように準備を進めています。

今後も人間ドック健診専門医の使命である、国民の疾病予防、重症化予防、健康増進を達成するために、人間ドック健診専門医の質の向上を図ることを目的とした事業を維持・運営してまいります。

### 専門医制度委員会委員長より

『人間ドック健診専門医制度』は日本総合健診医学会と日本人間ドック・予防医療学会の合同事業として平成24年度に創設されました。人間ドック健診専門医は健診受診者だけではなく、人間ドック健診をご依頼いただく健保組合、企業、そして一般社会に対しても人間ドック健診の質を保証する重要な役割を担っています。本委員会は、専門医数の更なる増加、育成を目指し、暫定研修施設・暫定指導医の委嘱を行っております。人間ドック健診専門医取得者は申請をへることで指導医を取得することが可能です。専門医をお持ちの先生は、是非とも指導医取得をご検討ください。

2023年度から新たに、本学会独自の認定医制度である「総合健診医」がスタートしました。この制度は健診に従事する医師のキャリアの継続、知識・技能の向上、アップデートを支援するという側面を持ちます。健診（検診）に関わる制度、法規、各種ガイドラインは日々更新されており、学術大会や各種研修会だけではキャッチアップしづらい情報も数多く存在します。「総合健診医」の学習環境として随時繰り返し視聴できるオンラインコンテンツを設けたことが特色の一つです。総合健診医認定者向けのオンラインコンテンツは整備途上ではありますが、総合健診医だけではなく、すでに専門医をお持ちの先生方にも有意義と考えられるコンテンツも順次充実してまいります。「総合健診医」は生まれたばかりの認定制度です。すべてのご希望に添えるとは限りませんが、会員の先生方のご意見を参考に、より良い制度に育てていければと考えております。是非とも「総合健診医」の認定申請をご検討ください。



日本大学短期大学部 教授  
食物栄養学科 学科長  
高橋 敦彦

## 研究奨励事業

本学会では、会員の学術水準の向上を支援するため、公募研究事業を行っています。採択された研究事業には、学会より1件当たり100万円を上限として助成を行っています。研究事業の成果は学術大会や学会誌において発表され、会員全体の学術向上に貢献しています。

なお、学術奨励助成の公募は例年、5月上旬を応募締切で以下の条件で募集しております。  
詳細は、本学会HP (<https://jhep.jp/jhep/hyosyo/awd07.jsp>) をご確認ください。

### 応募条件

- 筆頭研究者が本学会の個人会員（正会員・一般会員）である。
- 筆頭研究者の本学会の会員歴が、応募時点で3年以上である。
- 筆頭研究者の所属機関が本助成金の受け入れを承諾することができる。

## 表彰制度

### 日野原重明賞

日野原重明賞は予防医学において長期にわたり貢献された日野原重明先生の功績をたたえ設立された賞で、我が国の予防医学の発展に貢献された方を顕彰する制度です。

#### 第25回 2024年度受賞者



氏 名
佐藤 祐造 先生
所 属
名古屋大学 名誉教授・ 一般社団法人 健康評価施設査定機構 理事長



氏 名
篠原 幸人 先生
所 属
東海大学 名誉教授・ 国家公務員共済組合連合会立川病院 名誉院長

### 優秀論文賞

優秀論文賞は、本学会の学術誌に掲載された原著論文の中から、総合健診の発展及び学術的見地から優れた英文および和文論文を顕彰する制度です。

#### 第37回 2023年度受賞者

	氏 名	論文名	掲載号
和文	佐々木 清寿 先生	「脳心血管病予防に関する包括的リスク管理チャート」に基づく記載疫学	2023年50巻2号 p. 260-268
英文	山田 千積 先生	The role of inflammation in homocysteine-related muscle weakness in relatively healthy Japanese men and women	2023年50巻4号 p. 420-426

### 若手奨励賞／大会長奨励賞

若手会員（40歳未満）の活性化を図る目的から、学術大会の一般演題を対象に若手奨励賞の表彰を行っています。応募された大会抄録より5題が選出され、大会時の発表をもとに若手奨励賞（1名）、大会長奨励賞（4名）を審査決定いたします。

#### 2024年度 若手奨励賞・第52回大会長奨励賞

	氏 名	演題名
若手奨励賞	計良 政裕 先生	人間ドックにおける尿中アルブミン/クレアチニン比と尿蛋白定性との比較検討
第52回 大会長奨励賞	家城 美波 先生	COVID-19流行前後における、受診者の問診票に基づく生活習慣の経年変化について
	魚谷 奈央 先生	人間ドック健診受診者における食行動異常と体組成及び生活習慣病との関連（2020年度学術奨励助成中間報告）
	松岡 薫子 先生	当健診センター腹部超音波検査で発見された腎癌の超音波像の検討
	根本 菜央 先生	子育て世代女性の健診受診率向上への取り組み ～まますま健診の実施を通して～

### 産業医学奨励賞

会員の産業医学活動のさらなる展開を図る目的から、2021年度より産業医学奨励賞が創設されました。産業医学（産業保健・産業衛生）活動に関連した内容をテーマとし、応募された演題より選出され、大会時の発表をもとに審査決定いたします。

#### 第4回 2024年度受賞者

氏 名	演題名
山口 孝子 先生	深夜業務のある労働者の質の良い睡眠に寄与する要因の検討
伊藤 佳奈美 先生	大学病院に勤務する医師における長時間労働とライフスタイルとの関連

## 入会について

本学会では健診に携わる様々な職種の方にご入会いただいています。新たに入会を希望される場合は、本学会ホームページから入会届をダウンロードして、学会事務局までFAXまたは郵送でお送りください。なお、個人会員は学会ホームページからオンラインでも入会申し込みが可能です。

会員種別	概要	年会費
正会員・一般会員 (個人会員)	本学会の目的や活動に賛同する医師及び医師以外の個人の方が対象です。	10,000円
施設会員	総合健診システムを運営する施設が対象です。	70,000円
購読会員	学会誌の購読のみを目的とした団体または法人が対象です。	12,000円
賛助会員 (事業維持会員)	本学会の目的に賛同する団体または法人が対象です。	1口 (20,000円)

- 本学会事業年度は、12月1日から11月30日です。
- 入会は随時受付しておりますが、年度ごとに会費全額の納入が必要です。
- 年会費には本学会学会誌（年6冊）が含まれています。会員の皆様には発行後にお届けいたします。

### ● 会員数

2024年5月31日時点

会員種別	個人会員		施設会員		賛助会員 (事業維持会員)	購読会員	会員数総計
	正会員	一般会員	優良健診施設	その他			
会員数	1929	287	263	142	10	1	2632

## 特健・特保 集合契約Aについて

本学会施設会員は、本学会を「取りまとめ機関」として下の保険者との特定健診・特定保健指導の集合契約Aを委託契約することができます。集合契約Aをご希望の場合は学会事務局までお問い合わせください。

### 〈集合契約A参加予定代表保険者〉

「健康保険組合連合会」「全国健康保険協会・船員保険会」「日本私立学校振興・共済事業団」「一般社団法人共済組合連盟（国家公務員共済組合）」「福島県市町村国保」「全国土木建築国民健康保険組合（※委託範囲は特定健康診査のみ）」



## 日本総合健診医学会メールマガジン・Facebookについて

本学会では学術大会や研修会等のお知らせを、毎月1回、メールマガジンとして配信しています。メールマガジンは会員以外の方もご登録いただけますので、本学会の活動に関心をお持ちの方はぜひ本学会ホームページよりご登録ください。また、学会Facebookでも研修会や学術大会の様子、優良総合健診施設の紹介等を掲載していますので、是非アクセスしてみてください。

## 一般社団法人 日本総合健診医学会 The Japan Society of Health Evaluation and Promotion

**事務局** 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 1丁目31-10 セシア千駄ヶ谷ビル2階  
TEL：03-5413-4400 / FAX：03-5413-0016 / URL：https://jhep.jp/

**目的** 本法人は、国民の疾病予防、健康維持、増進を通じて、一人ひとりにとっての生活の満足度を充足した健康寿命の延伸を図り、総合健診をはじめとする各種の健康診査、健康評価の方法、および健康予測の研究を行い、これらを健康教育に有効に活用して、国民の健康保持と増進に貢献することを使命とするものが相互に情報交換を行い、かつ交流を深めることを支援することを目的としています。

- 事業**
1. 学術大会の開催（年1回）
  2. 学会雑誌「総合健診」 ISSN 1347-0086  
英文名：Health Evaluation and Promotion  
(略称：HEP) およびその他の刊行物の発行
  3. 優良総合健診施設の認定
  4. 人間ドック健診専門医、総合健診指導士、総合健診業務管理士の認定
  5. 精度管理調査の実施（年4回）
  6. 各種研修会・講習会の開催
  7. 健診団体連絡協議会・日本人間ドック・予防医療学会など関連学会・学術団体への協力
  8. 日本学術会議の登録学術研究団体としての諸活動
  9. 統計事業（受診者統計指標などの作成）
  10. 日野原重明賞・優秀論文賞・若手奨励賞・産業医学奨励賞等の表彰事業、学術奨励助成事業
  11. 国際健診学会の事務局業務



発行日：2024年6月30日